

令和6年度

事業報告書

自 令和 6 年 4 月 1 日

至 令和 7 年 3 月 31 日

社会福祉法人 神通福社会

令和6年度事業報告

1. 事業概況

【新型コロナウイルス等の感染症の影響】

新型コロナウイルス感染症の発生は、日本社会に多大な影響を与えましたが、令和5年5月に第5類に移行することで、新しい日常生活を迎えることになり、経済活動の正常化と社会生活の安定が進みました。しかしながら、新型コロナウイルス感染症の拡大はその後も進み、合わせて季節性インフルエンザの流行もあり事業運営には引き続き大きな影響を与え続けています。当法人においても令和7年2月に3度目の新型コロナウイルス感染症クラスターが発生し、当法人の運営、収支にも大きな影響がありました。

【事業を取り巻く環境要因の影響】

1. 世界情勢の混迷

ウクライナ侵攻やイスラエル紛争などの地域紛争が納まることなく、日本経済にも多大な影響を与えており、資源価格の高騰や物価上昇、人件費上昇が継続的に進んでいます。更にアメリカ政府の高関税政策により世界的に経済が混乱しており、これらにより当法人においてもコスト面において大きな負担がかかってきています。

2. 介護人材不足

日本において少子高齢化により介護を必要とする人が年々増えていく一方、生産労働人口は年々減少していき、介護の担い手の大幅な不足が予想されています。当法人では職員の離職が続き、充足が十分に追いついていないのが現状です。継続的な職員の募集、採用を進めると同時に、業務効率化を図り、生産性の向上等の取り組みにより職員の定着を目指していかなければなりません。

3. 設備投資

令和6年元日の能登半島地震により、下新、永楽のそれぞれの建屋や内装に損傷が発生し、想定外の支出が発生しました。また下新の建屋は開設後21年が経過し、水回りを中心とした修繕の発生や施設設備の更新時期が来ている事により、設備投資が必要な時期となっています。

【令和6年度の事業収支状況】

法人全体のサービス活動収益は、637,680千円で前期より13,121千円増、前年比102.1%となりました。サービス活動費用は666,784千円で前期より37,124千円増、前年比105.9%となりました。収入は若干増えましたが、費用の大幅な増加があり、サービス活動増減差額▲29,104千円、経常増減差額▲26,626千円となりました。

2. R6 年度の主な取り組み

- ・介護において防げる・防げた事故を 10%削減

令和 6 年度目標 81 件以内 ⇒ 結果 67 件（目標より 17.3%削減）

- ・目標管理制度の実施

法人の決算期に合わせ評価期間を上期、下期に変更し、期初の目標設定と終了時の振り返りを行い、評価結果のフィードバックを含めて上司と部下の面談機会を増やした。

- ・歯科協力病院の設置

歯科医師による全職員への口腔ケアに関する研修を実施した後、次の段階として利用者様を対象としての介護職員の実地研修を進めている。

- ・各種規程の整備

法令の改正や制度変更による勤務時間・給与規程の改定や育児・介護休業等に関する規程、苦情解決処理要綱、準職員向けの規程の改定など、順次、神通福祉会の規程の整備を進めている。

- ・広報活動

SNS の活用や広報誌による広報機会の増加、パンフレット類の見直し、法人ホームページのリニューアル等を進めている。

- ・生産性向上、ICT・ロボット等の活用

ICT を活用した利用者様の見守りを強化するため、眠りスキャン 30 台、マットセンサー 3 台を一括導入した。眠りスキャンを活用しての研究発表会を再開して取り組んでいる。

勤怠管理システムの導入を進め、シフト計画から実績の把握、給与への反映を含めて事務作業の軽減化を進めている。

特殊浴槽で保守期限の満了したイス浴をミスト浴に更新した。利用者様の満足度に変化はなく、水の使用量、対応時間の削減、職員の負担軽減が計られた。

以上